

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年2月13日
【四半期会計期間】	第107期第3四半期（自平成25年10月1日至平成25年12月31日）
【会社名】	パナソニック株式会社
【英訳名】	Panasonic Corporation
【代表者の役職氏名】	取締役社長 津賀 一 宏
【本店の所在の場所】	大阪府門真市大字門真1006番地
【電話番号】	大阪（06）6908 - 1121
【事務連絡者氏名】	経理グループ グループマネージャー 井 垣 誠 一 郎
【最寄りの連絡場所】	東京都港区東新橋一丁目5番1号（パナソニック東京汐留ビル） パナソニック株式会社 渉外本部
【電話番号】	東京（03）3437 - 1121
【事務連絡者氏名】	経理グループ グループマネージャー 恩 田 幸 敏
【縦覧に供する場所】	パナソニック株式会社 渉外本部 （東京都港区東新橋一丁目5番1号（パナソニック東京汐留ビル）） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第106期 第3四半期 連結累計期間	第107期 第3四半期 連結累計期間	第106期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成25年4月1日 至平成25年12月31日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円) (第3四半期連結会計期間)	5,439,663 (1,801,503)	5,679,811 (1,973,491)	7,303,045
税引前利益(は損失)(百万円)	269,398	307,037	398,386
当社株主に帰属する四半期(当期) 純利益(は損失)(百万円) (第3四半期連結会計期間)	623,830 (61,340)	243,014 (73,680)	754,250
当社株主に帰属する四半期(当期) 包括利益(は損失)(百万円)	570,792	385,083	647,324
当社株主資本(百万円)	1,340,663	1,636,642	1,264,032
資本合計(百万円)	1,382,881	1,684,934	1,304,273
総資産額(百万円)	5,744,186	5,476,647	5,397,812
基本的1株当たり当社株主に 帰属する四半期(当期)純利益 (は損失)(円) (第3四半期連結会計期間)	269.86 (26.53)	105.13 (31.87)	326.28
希薄化後1株当たり当社株主に 帰属する四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
当社株主資本比率(%)	23.3	29.9	23.4
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	82,165	355,155	338,750
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	49,755	76,964	16,406
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	104,060	302,624	491,058
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	525,303	520,151	496,283

(注)1 当社の連結財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて作成しており、当社株主資本比率は、当社株主資本をもとに算出しています。

2 売上高には、消費税等は含まれていません。

3 希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

## 2【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社522社を中心に構成され、総合エレクトロニクスメーカーとして関連する事業分野について、国内外のグループ各社との緊密な連携のもとに、生産・販売・サービス活動を展開しています。

当社グループの製品の範囲は、電気機械器具のほとんどすべてにわたっており、「アプライアンス」「エコソリューションズ」「AVCネットワークス」「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」「その他」の5セグメントから構成されています。なお、平成25年4月1日にグループ体制の再編を実施したことに伴い、従来の8セグメントから上述の5セグメントへ変更しています。各セグメントの詳細は、「第4 経理の状況」の「1 四半期連結財務諸表」注記12に記載しています。

当第3四半期連結累計期間における、当社グループが営む事業の内容の変更及び主要な関係会社の異動は、以下のとおりです。

### 「AVCネットワークス」セグメント

平成25年4月1日付で、パナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)は、携帯電話端末事業を新設分割し、携帯電話基地局事業を分割しパナソニック システムネットワークス(株)へ承継したうえで、当社に吸収合併されました。なお、新設分割により発足した会社が、新たなパナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)となっています。

平成25年10月31日開催の取締役会において、プラズマディスプレイパネル(以下、PDP)事業を終息することを決議しました。これに伴い、同年12月にPDPの生産を終了し、平成26年3月末で、兵庫県尼崎市にあるパナソニック プラズマディスプレイ(株)の第3工場(停止中)、第5工場(休止中)及び現在稼働している第4工場の事業活動を停止します。

### 「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメント

平成25年11月28日開催の取締役会において、回路基板事業のうち、樹脂多層基板及び薄型・高密度配線板事業を終息することを決議しました。なお、これに伴う拠点閉鎖はありません。

当社は米国で一般に公正妥当と認められた会計原則に基づいて連結財務諸表を作成しており、関係会社の範囲についても当該会計原則の定義に基づいて開示しています。「第2 事業の状況」においても同様です。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

## 2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間における経営上の重要な契約等の決定又は締結は以下のとおりです。

### (1) トルコ電設資材メーカー買収に関する株式売買契約等の締結

当社は、平成25年10月31日開催の取締役会において、トルコ共和国の電設資材メーカーであるヴィコ社の株主との間で、株式売買契約書及び株主間契約書を締結することを決議し、同日付で株式売買契約書を締結しました。ヴィコ社の概要は、次のとおりです。

正式名称	Viko Elektrik ve Elektronik Endüstrisi Sanayi ve Ticaret Anonim Şirketi
所在地	トルコ共和国 イスタンブール市
事業内容	配線器具、低電圧電路機器、スマートメータ、ビル・オートメーション・システムなど電設資材の製造及び販売
資本金	1.18億トルコリラ（平成24年12月末現在）
総資産	2.48億トルコリラ（平成24年12月末現在）
売上高	2.65億トルコリラ（平成24年12月期）

### (2) 半導体事業に関する合併会社設立契約書等の締結

当社は、平成25年12月20日開催の取締役会において、北陸地区に展開する3工場（魚津・砺波・新井）の半導体ウェハ製造工程にかかる事業を、当社が新たに設立する株式会社（以下、新会社）に、平成26年4月1日付（予定）で譲渡し、次いで同日付（予定）で新会社の株式の51%をイスラエルの半導体ウェハの受託製造専門企業であるタワーセミコンダクター社（ブランド名：タワージャズ、以下、「T」社）に譲渡し、新会社を合併会社とするため、T社との間で合併会社設立契約書を、新会社との間で事業譲渡契約書を、T社及び新会社との間で株主間契約書をそれぞれ締結することを決議しました。新会社の概要（予定）は、次のとおりです。

名称	パナソニック・タワージャズセミコンダクター(株)（仮称）
所在地	富山県 魚津市
事業内容	半導体ウェハの受託製造、当社からの生産請負
資本金	7.5億円
設立	平成26年3月（予定）

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 販売・利益業績

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、新興国の一部では伸び悩みましたが、米国や日本では緩やかな景気回復が継続し、欧州でも持ち直しの動きが見られました。

このような経営環境のもと、当社グループでは、事業部制を軸としたグループ基本構造のもと、個々の事業の強さを取り戻すことをベースに、「課題事業の構造改革」「次なる成長に向けた戦略構築と仕込み」に取り組みました。具体的には、プラズマディスプレイの生産を終了、回路基板事業でも樹脂多層基板および薄型・高密度配線板の事業終息を決定するなど、構造改革を着実に進めました。また、次なる成長に向けて、テスラモーターズ社へのEV用リチウムイオン電池の供給拡大契約を締結、トルコ配線器具メーカーのヴィコ社買収を決定しました。

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は、円安による押し上げ効果もあり、5兆6,798億円（対前年同期比4%増）となりました。車載関連事業はグローバルでの市況回復を背景に伸長し、また、住宅関連事業も国内の好調な新設住宅着工需要を着実に取り込み、伸長しました。一方で、デジタルコンシューマー関連事業は、収益重視の事業展開を進めていることから、減収となりました。

利益につきましては、赤字事業の収益改善が大きく寄与し、また、全社を挙げた固定費削減や材料合理化の取り組みも下支えし、営業利益は2,632億円（対前年同期比116%増）となりました。営業外損益では、回路基板事業の事業構造改革費用217億円を計上したものの、第1四半期連結会計期間に年金制度変更に伴う一時益798億円を営業外収益に計上したことなどもあり、税引前利益は3,070億円（前年同期は2,694億円の損失）、また、当社株主に帰属する四半期純利益は2,430億円（前年同期は6,238億円の損失）と、いずれも大幅増益となりました。

#### (2) セグメントの業績

当第3四半期連結累計期間のセグメントの業績は次のとおりです。

なお、平成25年4月1日にグループ体制の再編を実施したことに伴い、従来の8セグメントから5セグメントへ変更しており、前年同期のセグメント情報については、平成25年度の形態に合わせて組み替えして表示していません。

##### a アプライアンス

アプライアンスの売上高は、9,032億円（対前年同期比8%増）となりました。中国の家庭用エアコンが、流通在庫の調整によって販売減となるなど、全体的に苦戦しましたが、円安の影響により、増収となりました。

営業利益は、円安による海外工場からの持帰り収支の悪化を、合理化やコスト削減の推進でカバーしきれず、前年同期から減益の270億円（対前年同期比23%減）となりました。

##### b エコソリューションズ

エコソリューションズの売上高は、1兆3,313億円（対前年同期比8%増）となりました。日本における消費税増税前の駆け込み需要の刈り取りなどにより、全ての事業部で販売増となり、増収となりました。

営業利益は、販売増に加えコスト削減等の取り組みで、円安によるマイナス影響をカバーし、前年同期から大幅増益の735億円（対前年同期比67%増）となりました。

##### c A V C ネットワークス

A V C ネットワークスの売上高は、1兆1,691億円（対前年同期比4%減）となりました。B t o B 事業の販売は着実に伸長しましたが、事業構造改革の取り組みや、需要の低迷に伴い、B t o C 事業の販売が減少したことにより、減収となりました。

営業利益は、64億円の損失（前年同期は241億円の損失）となりましたが、B t o B 事業の増販に伴う利益増に加え、テレビ・パネル事業等の事業構造改革の効果などにより、前年同期から改善しました。

##### d オートモーティブ&インダストリアルシステムズ

オートモーティブ&インダストリアルシステムズの売上高は、2兆508億円（対前年同期比9%増）となりました。好調な自動車生産を受け、インフォテインメント事業部などの車載関連事業の販売が増加したことに加え、円安の効果もあり、増収となりました。

営業利益は、車載関連事業が好調に推移したことに加え、円安によるプラス影響などにより、前年同期から大幅増益の864億円（対前年同期比217%増）となりました。

##### e その他

その他の売上高は、5,948億円（対前年同期比8%減）となりました。前年度に実施した三洋電機関連の事業譲渡の影響等により、減収となりました。

営業利益は、91億円（前年同期は99億円の損失）となりました。

(3) 資産、負債及び資本

当社グループの当第3四半期連結会計期間末の連結総資産は、前連結会計年度末から788億円増加し、5兆4,766億円となりました。これは、有形固定資産等の減少はありましたが、主に円安の影響によるものです。

負債は、前連結会計年度末から3,018億円減少し、3兆7,917億円となりました。これは、短期社債の償還等の有利子負債の圧縮や、退職給付引当金の減少によるものです。

当社株主資本は、前連結会計年度末から3,726億円増加し、1兆6,366億円となりました。これは、四半期純利益の計上に加え、円安に伴うその他の包括利益（損失）累積額の良化によるものです。また、当社株主資本に非支配持分を加味した資本合計は1兆6,849億円となりました。

(4) キャッシュ・フロー

当第3四半期連結累計期間の営業活動により増加したキャッシュ・フローは、営業利益の大幅な改善が寄与し、3,552億円（対前年同期差2,730億円増）となりました。投資活動に使用したキャッシュ・フローは770億円（対前年同期差272億円増）となりました。前年同期差の主な要因は、設備投資を抑制する一方で、保有株式や固定資産の売却による収入が前年に比べて減少したことです。この結果、フリー・キャッシュ・フロー（営業活動及び投資活動に関するキャッシュ・フローの合計）は2,782億円（対前年同期差2,458億円増）となりました。

また、財務活動に使用したキャッシュ・フローは、短期社債や長期債務等の有利子負債の圧縮を加速したことにより、3,026億円（対前年同期差1,985億円増）となりました。

これらに為替変動の影響を加味した結果、当第3四半期連結会計期間末で現金及び現金同等物残高は5,202億円（対前連結会計年度末差239億円増）となりました。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費は、3,464億円（対前年同期比8%減）です。当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の設備投資（有形固定資産のみ）は、1,428億円（対前年同期比38%減）です。

(7) 減価償却費

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の減価償却費（有形固定資産のみ）は、2,093億円（対前年同期比1%増）です。

(8) 従業員数

当第3四半期連結会計期間末の従業員数（就業人員数）は、285,817人（対前連結会計年度末差7,925人減）です。

(9) 株式会社の支配に関する基本方針

基本方針の内容

当社は創業以来、「事業活動を通じて、世界中の人々のくらしの向上と、社会の発展に貢献する」という経営理念をすべての活動の指針として、事業を進めてまいりました。今後も、お客様一人ひとりに対して「いいくらし」を提案し拡げていく中で、株主や投資家、お客様、取引先、従業員をはじめとするすべての関係者の皆様にご満足いただけるよう、持続的な企業価値の向上に努めてまいります。

当社は、当社株式の大規模な買付行為がなされた場合にこれを受け入れるかどうかは、最終的には、株主の皆様ご判断に委ねられるべきものと考えております。しかしながら、大規模な買付行為のなかには、株主の皆様が適切な判断を行うために必要な情報が十分に提供されない場合や、その目的などからみて、企業価値・株主全体の利益を著しく侵害するおそれがある場合もあり得ます。当社は、そのような場合には、当社株主全体の正当な利益を保護するために相当かつ適切な対応をとることが必要であると考えております。

基本方針の実現のための具体的な取り組み

(a) 基本方針の実現に資する特別な取り組み

従来からの、お客様のくらしに寄り添う「家電のDNA」を継承しながら、様々なパートナーと共に、お客様の「いいくらし」を追求し拡げていく、こうした姿の実現を目指して、平成25年度から新たな中期経営計画「Cross-Value Innovation 2015（略称CV2015）」に取り組んでいます。CV2015では、一刻も早く赤字事業を無くし、同時にしっかり将来を見据えて当社が力強く進んでいける道筋をつけてまいります。具体的には「赤字事業の止血」「脱・自前主義による成長・効率化」「財務体質改善」「お客様価値からの逆算による成長戦略」を重点施策として位置づけ、お客様とより深くつながり、より大きな価値が提供できる姿を目指します。

平成24年10月には、本社機能の抜本的な改革を実施し、絞り込んだ人員によるコーポレート戦略本社を発足、つづいて平成25年4月には、事業部制を新たに導入いたしました。こうした新たなグループ体制のもとで、スピードを上げてCV2015を推進してまいります。

## (b)基本方針に照らして不適切な者による支配を防止するための取り組み

当社は、平成17年4月28日開催の取締役会において、当社株式の大規模な買付行為に関するルール（以下、「大規模買付ルール」）の設定を内容とする対応方針（以下、「ESVプラン」）を決定しました。その後、毎年（平成24年は5月11日）の取締役会においてESVプランの継続を決定し、さらに、平成25年5月開催の取締役会においてもESVプランの継続を決議しました。

大規模買付ルールの内容は、特定の株主グループの議決権割合が20%以上となるような当社株式の買付（以下、このような買付行為を「大規模買付行為」、大規模買付行為を行う者を「大規模買付者」）を行おうとする者に対して、買付行為の前に、( )大規模買付者の概要、大規模買付行為の目的および内容、買付対価の算定根拠、買付資金の裏付け、大規模買付行為完了後に意図する当社経営方針および事業計画などの情報提供と、( )当社取締役会による適切な評価期間（60日または90日）の確保を要請するものです。当社取締役会は、提供されたこれらの情報をもとに、株主全体の利益の観点から評価・検討を行い、取締役会としての意見を慎重にとりまとめたうえで開示します。また、当社株主の皆様が適切な判断を行うために必要な情報を提供し、必要に応じて大規模買付者との大規模買付行為に関する条件改善の交渉や、株主の皆様への代替案の提示を行ってまいります。

大規模買付ルールが順守されない場合には、株主全体の利益の保護を目的として、株式の分割、新株予約権の発行（新株予約権無償割当てを含む）など、会社法その他の法律および当社定款が取締役会の権限として認める措置をとり、大規模買付行為に対抗することがあります。このルールが順守されている場合は、大規模買付行為が当社に回復しがたい損害をもたらすことが明らかでない限り、当社取締役会の判断のみで大規模買付行為に対抗するための措置をとろうとするものではありません。

対抗措置の発動は、当社取締役会の決定によりますが、その決定に際しては、弁護士、財務アドバイザーなどの外部専門家の意見も参考にし、社外取締役や監査役の意見も十分尊重するものとします。

上記の対抗措置を発動するに際し、当社取締役会が当社株主全体の利益の観点から株主の皆様的心思を確認させていただくことが適切であると判断した場合には、株主総会を開催することといたします。当社取締役会が株主総会を開催することを決定した場合には、その時点で株主総会を開催する旨および開催理由の開示を行います。

具体的な対抗措置については、その時点で相当と認められるものを選択することになります。当社取締役会が具体的対抗措置として一定の基準日現在の株主に対し株式の分割を行う場合の分割比率は、株式の分割1回につき当社株式1株を最大5株にする範囲で決定することとします。また、具体的対抗措置として株主割当てにより新株予約権を発行する場合は、一定の基準日現在の株主に対し、その所有株式1株につき1個の割合で新株予約権を割り当てます。新株予約権1個当たりの目的である株式の数は1株とします。なお、新株予約権を発行する場合には、大規模買付者を含む特定の株主グループに属する者に行使を認めないことを新株予約権の行使条件とするなど、対抗措置としての効果を勘案した行使期間、行使条件や、当社が大規模買付者以外の者から当社株式と引き換えに新株予約権を取得することができる旨の取得条件を設けることがあります。

対抗措置の発動によって、結果的に、大規模買付ルールを順守しない大規模買付者に経済的損害を含む何らかの不利益を発生させる可能性があります。他方、大規模買付者を除く当社株主の皆様が経済面や権利面で損失を被るような事態は想定しておりませんが、当社取締役会が具体的対抗措置をとることを決定した場合には、法令および金融商品取引所規則に従って、適時適切な開示を行います。

当社は、全取締役の任期を1年としており、取締役は、毎年6月の定時株主総会で選任される体制にあります。当社取締役会は、引き続き、法令改正の動向などを踏まえ、当社株主全体の利益の観点から、ESVプランを随時見直してまいります。

ESVプランの詳細については、平成25年5月10日付「当社株式の大規模な買付行為に関する対応方針について（買収防衛策）-ESV（Enhancement of Shareholder Value）プランの概要-」として公表しています。このプレスリリースの全文については、当社ホームページ（<http://panasonic.co.jp/corp/news/official.data/data.dir/2013/05/jn130510-1/jn130510-1.pdf>）をご参照ください。

## 具体的な取り組みに対する取締役会の判断及びその理由

当社の中期経営計画は、当社の企業価値を持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものです。また、ESVプランは、株主全体の利益を保護するという観点から、株主の皆様へ、大規模買付行為を受け入れるかどうかの判断のために必要な情報や、経営を担っている当社取締役会の評価意見を提供し、さらには、代替案の提示を受ける機会を保障することを目的とするものです。

したがって、これらの取り組みは、いずれも基本方針に沿い、当社株主全体の利益に合致するものと考えております。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,950,000,000
計	4,950,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	2,453,053,497	2,453,053,497	東京証券取引所(市場第一部) 名古屋証券取引所(市場第一部)	一単元の株式数は 100株でありま す。
計	2,453,053,497	2,453,053,497		

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株 式総数増 減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減 額 (百万 円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備 金残高 (百万 円)
平成25年10月1日～ 平成25年12月31日		2,453,053		258,740		

##### (6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年9月30日）に基づく株主名簿による記載をして

い

ます。

## 【発行済株式】

平成25年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 141,424,100		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
	(相互保有株式) 普通株式 14,994,900		同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,286,497,800	22,864,978	同上
単元未満株式	普通株式 10,136,697		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,453,053,497		
総株主の議決権		22,864,978	

(注)1 「完全議決権株式(その他)」欄及び「単元未満株式」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式がそれぞれ12,100株(議決権121個)及び9株含まれています。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には下記の自己保有株式及び相互保有株式が次のとおり含まれています。

自己保有株式 パナソニック株式会社(52株)

相互保有株式 株式会社パナソニック共済会(7株)、富田電機株式会社(77株)、旭鍍金工業株式会社

(71株)、大阪ナショナル電工株式会社(50株)、エーシーテクノサンヨー株式会社(75株)

## 【自己株式等】

平成25年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) パナソニック株式会社	大阪府門真市大字 門真1006番地	141,424,100		141,424,100	5.76
(相互保有株式) 株式会社パナソニック共済会	大阪府門真市大字 門真1006番地	14,798,800		14,798,800	0.60
山陰パナソニック株式会社	島根県出雲市渡橋 町416番地	100,000		100,000	0.00
富田電機株式会社	群馬県邑楽郡大泉 町大字吉田字本郷 2479番地	46,900		46,900	0.00
旭鍍金工業株式会社	大阪市旭区新森四 丁目5番16号	23,400		23,400	0.00
エスティシー株式会社	群馬県伊勢崎市日 乃出町1038番地	11,500		11,500	0.00
大阪ナショナル電工株式会社	大阪市東住吉区今 川八丁目7番21号	9,200		9,200	0.00
エーシーテクノサンヨー株式会社	さいたま市北区日 進町三丁目597番 地1	5,100		5,100	0.00
相互保有株式 計		14,994,900		14,994,900	0.61
計		156,419,000		156,419,000	6.37

(注)当第3四半期会計期間末日現在の自己保有株式数(単元未満株式を除く)は、141,463,800株となっています。「発行済株式総数に対する所有株式数の割合」は5.76%です。

## 2【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりです。

### 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
監査役		吉野 泰生	平成25年11月17日

(注) 逝去による退任です。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）附則第4条の規定により、米国で一般に公正妥当と認められた会計基準による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けています。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び現金同等物	496,283	520,151
定期預金	1,674	-
受取手形	56,752	75,732
売掛金	905,973	961,793
貸倒引当金	23,398	24,938
棚卸資産(注2)	786,845	850,719
その他の流動資産	269,954	320,298
流動資産合計	2,494,083	2,703,755
投資及び貸付金(注3)	276,978	255,720
有形固定資産(注5)		
土地	313,991	306,559
建物及び構築物	1,638,974	1,656,169
機械装置及び備品	2,723,993	2,854,273
建設仮勘定	60,173	38,714
減価償却累計額	3,061,703	3,255,487
有形固定資産合計	1,675,428	1,600,228
その他の資産		
のれん	512,146	511,732
無形固定資産(注5)	223,013	199,544
その他の資産	216,164	205,668
その他の資産合計	951,323	916,944
資産合計	5,397,812	5,476,647

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
短期負債及び一年以内返済長期負債(注9)	480,304	301,023
支払手形	52,205	125,201
買掛金	739,581	708,304
未払法人税等	32,162	42,620
未払人件費等(注9)	201,460	155,638
未払費用	713,314	757,348
得意先よりの前受金及び預り金	75,669	92,772
従業員預り金	6,610	6,278
その他の流動負債	297,854	310,455
流動負債合計	2,599,159	2,499,639
<b>固定負債</b>		
長期負債	663,091	567,778
退職給付引当金	621,802	519,619
その他の固定負債	209,487	204,677
固定負債合計	1,494,380	1,292,074
負債合計	4,093,539	3,791,713
<b>資本の部</b>		
<b>当社株主資本</b>		
資本金	258,740	258,740
(会社の発行する株式の総数 - 普通株式)		
4,950,000,000株		
(発行済の株式の総数 - 普通株式)		
2,453,053,497株		
資本剰余金(注7)	1,110,686	1,109,839
利益剰余金(注1)	769,863	1,001,315
その他の包括利益(は損失)累積額(注8)	628,229	486,160
自己株式		
(保有する自己株式の総数 - 普通株式)	247,028	247,092
前連結会計年度	141,394,374株	
当第3四半期連結会計期間	141,463,856株	
当社株主資本合計	1,264,032	1,636,642
非支配持分	40,241	48,292
資本合計(注7)	1,304,273	1,684,934
<b>契約残高及び偶発債務(注4及び11)</b>		
負債及び資本合計	5,397,812	5,476,647
<b>補足情報</b>		
その他の包括利益(は損失)累積額の内訳:		
為替換算調整額	297,015	133,144
有価証券未実現損益(注3)	218	3,267
デリバティブ未実現損益	4,573	1,516
年金債務調整額(注9)	326,423	354,767

( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

【四半期連結損益計算書】

( 単位：百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	5,439,663	5,679,811
売上原価(注8)	4,052,633	4,135,250
売上総利益	1,387,030	1,544,561
販売費及び一般管理費	1,265,077	1,281,385
営業利益(注9)	121,953	263,176
営業外損益(は損失)		
受取利息	7,219	7,492
受取配当金	3,639	1,948
その他の収益(注8及び9)	70,416	133,518
支払利息	18,349	16,374
長期性資産の減損(注5)	99,333	32,176
のれんの減損(注9)	237,778	-
その他の費用(注8及び9)	117,165	50,547
営業外損益合計	391,351	43,861
税引前利益(は損失)(注9)	269,398	307,037
法人税等(注9)	368,569	61,704
持分法による投資利益	4,596	5,300
非支配持分帰属利益控除前四半期純利益(は損失)	633,371	250,633
非支配持分帰属利益(は損失)	9,541	7,619
当社株主に帰属する四半期純利益(は損失)(注7)	623,830	243,014

【四半期連結包括損益計算書】

( 単位：百万円 )

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
非支配持分帰属利益控除前四半期純利益(は損失)	633,371	250,633
その他の包括利益(は損失) 税効果調整後(注8)		
為替換算調整額	74,588	172,967
有価証券未実現損益	19,453	3,500
デリバティブ未実現損益	4,794	3,057
年金債務調整額	7,730	27,131
合計	58,071	152,393
四半期包括利益(は損失)(注7)	575,300	403,026
非支配持分に帰属する四半期包括利益(は損失)	4,508	17,943
当社株主に帰属する四半期包括利益(は損失)	570,792	385,083

## 【第3四半期連結会計期間】

## 【四半期連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
売上高	1,801,503	1,973,491
売上原価(注8)	1,342,620	1,415,814
売上総利益	458,883	557,677
販売費及び一般管理費	424,296	441,090
営業利益	34,587	116,587
営業外損益(は損失)		
受取利息	2,073	2,661
受取配当金	1,101	438
その他の収益(注8及び9)	37,348	25,443
支払利息	6,267	4,490
長期性資産の減損(注5)	2,349	26,011
その他の費用(注8及び9)	57,220	14,996
営業外損益合計	25,314	16,955
税引前利益	9,273	99,632
法人税等	42,852	24,378
持分法による投資利益	1,978	2,204
非支配持分帰属利益控除前四半期純利益	54,103	77,458
非支配持分帰属利益(は損失)	7,237	3,778
当社株主に帰属する四半期純利益	61,340	73,680

## 【四半期連結包括損益計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
非支配持分帰属利益控除前四半期純利益	54,103	77,458
その他の包括利益(は損失) 税効果調整後(注8)		
為替換算調整額	141,740	117,962
有価証券未実現損益	11,381	9,021
デリバティブ未実現損益	9,558	1,025
年金債務調整額	2,379	3,943
合計	145,942	113,909
四半期包括利益	200,045	191,367
非支配持分に帰属する四半期包括利益	2,303	10,075
当社株主に帰属する四半期包括利益	197,742	181,292

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
<b>営業活動に関するキャッシュ・フロー</b>		
非支配持分帰属利益控除前四半期純利益(は損失)	633,371	250,633
営業活動に関するキャッシュ・フローへの調整		
減価償却費 (無形固定資産及び繰延社債発行費の償却費を含む)	254,499	249,724
有価証券の売却損益(は利益)	29,731	25,559
貸倒引当金繰入額	3,814	4,131
法人税等繰延額(注9)	319,274	2,553
投資有価証券の評価減(注9)	4,104	45
長期性資産及びのれんの減損(注5及び9)	337,111	32,176
売上債権の増減額(は増加)	78,954	17,346
棚卸資産の増減額(は増加)	21,208	20,146
その他の流動資産の増減額(は増加)	48,133	14,204
買入債務の増減額(は減少)	87,473	15,908
未払法人税等の増減額(は減少)	12,558	10,995
未払費用及びその他の流動負債の増減額(は減少)	88,674	46,724
退職給付引当金の増減額(は減少)	6,399	124,628
得意先よりの前受金及び預り金の増減額(は減少)	6,074	15,934
その他	19,234	1,639
営業活動に関するキャッシュ・フロー	82,165	355,155
<b>投資活動に関するキャッシュ・フロー</b>		
投資及び貸付金の売却及び回収	129,582	57,207
投資及び貸付金の増加	3,114	6,431
有形固定資産の購入	249,225	141,911
有形固定資産の売却	68,037	27,660
定期預金の増減額(は増加)	21,337	1,674
その他	16,372	15,163
投資活動に関するキャッシュ・フロー	49,755	76,964
<b>財務活動に関するキャッシュ・フロー</b>		
満期日が3ヵ月以内の短期債務の増減額(は減少) (注1)	11,936	139,089
満期日が3ヵ月超の短期債務の増加(注1)	423,820	11,350
満期日が3ヵ月超の短期債務の返済(注1)	433,115	26,767
長期債務の増加	648	-
長期債務の返済	62,498	125,487
当社株主への配当金(注7)	11,559	11,558
非支配持分への配当金(注7)	8,788	10,093
自己株式の取得(注7)	21	73
自己株式の売却(注7)	6	5
非支配持分の取得(注7)	827	579
その他	210	333
財務活動に関するキャッシュ・フロー	104,060	302,624
為替変動による現金及び現金同等物への影響額	22,542	48,301
現金及び現金同等物の純増減額(は減少)	49,108	23,868
現金及び現金同等物期首残高	574,411	496,283
現金及び現金同等物四半期末残高	525,303	520,151

## 【注記事項】

## 1 基本となる事項

## 1) 四半期連結財務諸表の作成基準

当社（以下、原則として連結子会社を含む）の四半期連結財務諸表は、米国で一般に公正妥当と認められた会計原則（以下、「米国会計基準」）に基づいて作成されており、個別財務諸表を基礎として米国会計基準に一致させるために必要な調整を行っています。

## 2) 四半期連結財務諸表の作成状況及び米国証券取引委員会における登録状況

当社は昭和45年に米国預託証券として株式を公募時価発行したことに伴い、1933年証券法に基づくForm S-1登録届出書により、米国証券取引委員会に登録を行いました。以降、1934年証券取引所法に基づき、継続して米国会計基準に基づく四半期連結財務諸表を作成しています。なお、当社は平成25年7月10日に米国証券取引委員会への登録を廃止しています。

## 3) 連結の方針

当社の四半期連結財務諸表は、当社及び当社が過半数の議決権持分を所有し、支配権を有する子会社の勘定を含んでいます。さらに、当社は米国財務会計基準審議会会計基準編纂書（以下、「会計基準編纂書」）810「連結」の規定に従い、変動持分により支配権を有する事業体を連結しています。連結会社間のすべての重要な債権債務及び取引は消去しています。また、当社が重要な影響力を与えることができる関連会社（一般的に20%から50%までの議決権比率を所有する会社やジョイントベンチャー等）に対する投資は、持分法を適用し、四半期連結貸借対照表の「投資及び貸付金」に含めています。平成25年度第3四半期末の連結子会社は522社、持分法適用関連会社は91社です。

当社は、平成24年度の有価証券報告書より、連結キャッシュ・フロー計算書の財務活動に関するキャッシュ・フローにおいて、満期日が3ヵ月超の短期債務の増加及び返済を総額で表示することとし、四半期連結財務諸表においても、過年度の連結キャッシュ・フロー計算書を再表示しています。なお、この再表示が財務活動に関するキャッシュ・フローに与える影響はありません。

当社は、平成25年度より、連結貸借対照表の資本の部において、「利益準備金」と「その他の剰余金」をまとめて「利益剰余金」として表示することとし、過年度の連結貸借対照表を再表示しています。なお、この再表示が資本の部及び当社株主資本に与える影響はありません。

当社が採用している会計処理の原則及び手続並びに表示方法のうち、わが国の四半期連結財務諸表規則に準拠した場合と異なるもので、重要なものは以下のとおりです。なお、金額的に重要性のある項目については、わが国の会計基準に基づいた場合の税引前利益に対する影響額を開示しています。

## (イ) 固定資産の圧縮記帳の処理

固定資産の圧縮記帳は、圧縮相当額を固定資産の取得原価に振戻し、さらに償却資産については圧縮相当額振戻し後の取得原価に対応した減価償却費を計上しています。

## (ロ) のれん償却費

当社は、会計基準編纂書350「無形資産 のれん及びその他の無形資産」の規定を適用しています。同規定はのれんと耐用年数が確定できない無形資産について、償却を行わずに少なくとも年1回の減損の判定を行うことを要求しています。平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間における影響額は、各々19,566百万円（損失）、17,943百万円（利益）です。また、平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間における影響額は、各々6,802百万円（利益）、5,981百万円（利益）です。

## (ハ) 社債発行費

社債発行費は、「その他の資産」に計上し、社債の償還までの期間にわたって償却しています。

## (ニ) 年金会計

年金制度及び一時金制度について、当社は、会計基準編纂書715「報酬 退職給付」の規定を適用しています。同規定に基づき、年金制度の財政状況（すなわち、年金資産と退職給付債務の差額）を四半期連結貸借対照表で認識しており、対応する調整を税効果調整後で、「その他の包括利益（損失）累積額」に計上しています。年金数理上の純損益については、下記を除いて、回廊（退職給付債務と年金資産の公正価値のいずれか大きい方の10%）を超える部分について、従業員の平均残存勤務年数で、定額償却しています。

当社及び一部の国内子会社は、従来の確定給付年金制度について、平成25年7月1日以降の積立分（将来分）を確定拠出年金制度へ移行しました。従来の確定給付年金制度（過去分）に基づく年金数理上の純損益については、回廊を超える部分について、従業員及び退職者の平均余命年数で、定額償却しています。なお、平成25年度第1四半期連結会計期間での、確定拠出年金制度への移行決定に伴う影響額については、注記9に記載しています。

## (ホ) 特別利益（損失）の表示方法

わが国の四半期連結財務諸表規則に規定されている特別利益（損失）は、原則として営業外損益として表示しています。

#### 4) 経営活動の概況

当社は、国際的なエレクトロニクス企業として、各種の電気製品の生産、販売を中心とした事業活動を行っています。今日では、事業領域も高度なエレクトロニクス技術を基盤として、家庭用、業務用、産業用の広範な製品、システム、部品等に加え、住設建材、住宅等に拡大しています。

当第3四半期連結累計期間の売上高におけるセグメント別の構成比は、アプライアンス15%、エコソリューションズ22%、AVCネットワークス19%、オートモーティブ&インダストリアルシステムズ34%、その他10%となっています。地域別の構成比は、日本49%、米州15%、欧州10%、アジア・中国他26%となっています。

当第3四半期連結会計期間の売上高におけるセグメント別の構成比は、アプライアンス14%、エコソリューションズ23%、AVCネットワークス20%、オートモーティブ&インダストリアルシステムズ33%、その他10%となっています。地域別の構成比は、日本49%、米州15%、欧州11%、アジア・中国他25%となっています。

また、当社は材料の調達を特定の供給者に依存しておらず、材料調達に重要な問題はありませぬ。

#### 5) 見積りの使用

当社は四半期連結財務諸表を作成するために、種々の仮定と見積りを行っています。それらの仮定と見積りは資産・負債・収益・費用の計上金額並びに偶発資産及び債務の開示情報に影響を及ぼします。重要な仮定と見積りは、収益認識、貸倒引当金、棚卸資産の評価、長期性資産の減損、のれんの減損、環境負債、繰延税金資産の評価、不確実な税務ポジション、退職給付債務に反映しています。なお、実際の結果がこれらの見積りと異なることもあり得ます。

また、当社は、当四半期連結財務諸表の公表日である平成26年2月13日までの後発事象を評価しています。

#### 6) 新会計基準の適用

当社は、平成25年4月1日より会計基準アップデート2013-02「その他の包括利益累積額からの組替金額の報告」を適用しました。同規定は、会計基準編纂書220「包括利益」を改訂するものであり、その他の包括利益累積額から組替えられた金額を項目ごとに開示するとともに、そのうち重要な金額を連結損益計算書の科目ごとに開示することを求めており、当社は、注記8で当該内容を開示しています。この適用に伴う当社の四半期連結財務諸表への影響はありません。

#### 7) 組替え再表示

平成25年度の表示方法に一致するように、平成24年度の連結財務諸表を組替え再表示しています。

(単位：百万円)

摘要	前連結会計年度 (平成25年3月31日)			当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)		
2 棚卸資産 棚卸資産の内訳は次のとおりです。						
製商品	453,440			500,395		
仕掛品	135,308			159,550		
原材料	198,097			190,774		
合計	786,845			850,719		
3 有価証券						
<p>当社は、会計基準編纂書320「投資 負債証券及び持分証券」の規定に従い、関連会社に対する投資を除いた市場性のある株式及びすべての債券を売却可能有価証券として分類しています。</p> <p>「投資及び貸付金」に含まれる売却可能有価証券に関して、平成24年度末及び平成25年度第3四半期末現在の主な有価証券種類別の取得原価、公正価値及び未実現損益は次のとおりです。</p>						
	前連結会計年度			当第3四半期連結会計期間		
	取得原価	公正価値	未実現損益 (は損失)	取得原価	公正価値	未実現損益 (は損失)
投資及び貸付金：						
株式	49,176	84,035	34,859	20,247	59,784	39,537
社債・政府債	1,691	1,718	27	1,672	1,691	19
その他債券	12	12		16	16	
計	50,879	85,765	34,886	21,935	61,491	39,556
<p>平成24年度末及び平成25年度第3四半期末現在における当社の原価法による投資の帳簿価額の合計額は、各々21,566百万円及び21,240百万円です。</p>						
4 リース						
<p>当社は、土地、建物、機械装置及び備品、償却対象無形固定資産の一部をオペレーティング・リースとして賃借しています。</p> <p>平成25年度第3四半期末現在のオペレーティング・リースによる最低リース料支払予定額は次のとおりです。</p>						
	支払予定額：			当第3四半期連結会計期間 オペレーティング・リース		
	1年以内			33,377		
	1年超2年以内			19,850		
	2年超3年以内			10,477		
	3年超4年以内			9,079		
	4年超5年以内			7,178		
	5年超			27,237		
	最低リース料支払予定額総額			107,198		

## 摘要

## 5 長期性資産

当社は、長期性資産の連結貸借対照表計上額について、当該資産から得られる将来のキャッシュ・フローによって資産の残存価額を回収することができるかを定期的に検討しています。

以下に記載している長期性資産の減損損失のセグメント別金額は、変更後のセグメント区分に基づいています。なお、減損損失は、セグメント別利益には反映されていません。

当社は、平成25年度第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間に、長期性資産について各々合計32,176百万円及び26,011百万円の減損損失を計上しました。平成25年度第3四半期連結累計期間の減損損失のうち5,849百万円、1,346百万円及び22,845百万円は、各々「エコソリューションズ」、「A V C ネットワークス」及び「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメントに関連するものです。平成25年度第3四半期連結会計期間の減損損失のうち2,233百万円及び22,172百万円は、各々「エコソリューションズ」及び「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメントに関連するものです。

当社は、平成25年度第3四半期連結会計期間に、「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメントに帰属する回路基板事業のうち、樹脂多層基板及び薄型・高密度配線板事業を終息することを決定し、関連する国内外の拠点の生産設備等の減損損失を計上しました。これは、事業の終息決定に伴い、当該資産の帳簿価額が将来キャッシュ・フローによって回収できないと見込まれたことによるものです。公正価値は、主に再調達原価法に基づく個別査定により決定されています。

当社は、平成24年度第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間に、長期性資産について各々合計99,333百万円及び2,349百万円の減損損失を計上しました。平成24年度第3四半期連結累計期間の減損損失のうち76,427百万円及び21,235百万円は、各々「エコソリューションズ」及び「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメントに関連するものです。平成24年度第3四半期連結会計期間の減損損失のうち793百万円及び980百万円は、各々「エコソリューションズ」及び「A V C ネットワークス」セグメントに関連するものです。

当社は、平成24年度第2四半期連結会計期間に、「エコソリューションズ」セグメントに帰属するソーラー事業の特許・ノウハウや商標等に関連する償却対象無形固定資産及び生産設備の減損損失を計上しました。このうち、償却対象無形固定資産の減損損失は73,894百万円です。これは、製品価格の継続的な下落を受けて今後の販売及び投資政策を見直した結果、当該資産の帳簿価額が将来キャッシュ・フローによって回収できないと見込まれたことによるものです。公正価値は、償却対象無形固定資産については主に超過収益法及び免除ロイヤリティ法により、生産設備については再調達原価法に基づく個別査定により、各々決定されています。

当社は、平成24年度第2四半期連結会計期間に、「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメントに帰属する民生用リチウムイオン電池事業の特許・ノウハウ等に関連する償却対象無形固定資産、土地、建物及び生産設備の減損損失を計上しました。このうち、償却対象無形固定資産の減損損失は13,658百万円です。これは、製品価格の継続的な下落を受けて今後の販売及び投資政策を見直した結果、当該資産の帳簿価額が将来キャッシュ・フローによって回収できないと見込まれたことによるものです。公正価値は、償却対象無形固定資産については主に超過収益法及び免除ロイヤリティ法により、土地、建物及び生産設備については再調達原価に基づく個別査定により、各々決定されています。

摘要

6 1株当たり情報

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
1株当たり当社株主資本	546円81銭	708円2銭

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
当社株主に帰属する四半期純利益(は損失)	623,830百万円	243,014百万円
平均発行済株式数	2,311,688,850株	2,311,634,016株
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益(は損失)	269円86銭	105円13銭

なお、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

	前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
当社株主に帰属する四半期純利益	61,340百万円	73,680百万円
平均発行済株式数	2,311,680,780株	2,311,615,720株
基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	26円53銭	31円87銭

なお、希薄化後1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(単位：百万円)

摘要

7 資本

平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間における連結貸借対照表の当社株主資本及び非支配持分の帳簿価額の変動は、次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)			当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)		
	当社株主資本	非支配持分	資本合計	当社株主資本	非支配持分	資本合計
期首残高	1,929,786	47,780	1,977,566	1,264,032	40,241	1,304,273
当社株主への配当金	11,559		11,559	11,558		11,558
非支配持分への配当金		8,788	8,788		10,093	10,093
自己株式の取得	21		21	73		73
自己株式の売却	6		6	5		5
非支配持分の取得	6,757	5,930	827	847	268	579
その他		1,804	1,804		67	67
包括利益(損失)：						
四半期純利益(は損失)	623,830	9,541	633,371	243,014	7,619	250,633
その他の包括利益(は損失)						
税効果調整後：						
為替換算調整額	69,667	4,921	74,588	163,871	9,096	172,967
有価証券未実現損益	19,487	34	19,453	3,485	15	3,500
デリバティブ未実現損益	4,794		4,794	3,057		3,057
年金債務調整額	7,652	78	7,730	28,344	1,213	27,131
四半期包括利益(は損失)	570,792	4,508	575,300	385,083	17,943	403,026
四半期末残高	1,340,663	42,218	1,382,881	1,636,642	48,292	1,684,934

平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間の当社株主に帰属する四半期純利益(損失)及び非支配持分との取引による資本剰余金の増減の内訳は、以下のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
当社株主に帰属する四半期純利益(は損失)	623,830	243,014
非支配持分との取引に伴う資本剰余金の増減(は減少)：		
追加持分の取得	6,757	847
合計	6,757	847
当社株主に帰属する四半期純利益(損失)と非支配持分との取引に伴う資本剰余金の増減額の合計	630,587	242,167

平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間において、非支配持分との取引によって増減した資本準備金の金額は重要ではありません。

(単位：百万円)

摘要					
8 その他の包括利益（損失）					
平成25年度第3四半期連結累計期間のその他の包括利益（損失）の内訳は、次のとおりです。					
	為替換算 調整額	有価証券 未実現損益	デリバティブ 未実現損益	年金債務 調整額	合計
その他の包括利益（は損失）累 積額 - 期首残高	297,015	218	4,573	326,423	628,229
当期発生額：					
税効果調整前	178,136	39,218	8,922	37,884	246,316
税効果額		14,506	508	1,992	15,990
税効果調整後	178,136	24,712	8,414	35,892	230,326
当期純利益への振替額：					
税効果調整前	5,169	34,102	12,029	65,777	93,019
税効果額		12,890	558	2,754	15,086
税効果調整後	5,169	21,212	11,471	63,023	77,933
その他の包括利益（は損失） - 税効果調整後	172,967	3,500	3,057	27,131	152,393
非支配持分に帰属するその他の 包括利益（は損失） - 税効果 調整後	9,096	15		1,213	10,324
その他の包括利益（は損失）累 積額 - 四半期末残高	133,144	3,267	1,516	354,767	486,160
<p>上表における「当期純利益への振替額 - 税効果調整前」は、各々四半期連結損益計算書上、以下のとおり含まれています。（は損失）</p> <p>    為替換算調整額 - 「営業外損益 - その他の収益（費用）」</p> <p>    有価証券未実現損益 - 「営業外損益 - その他の収益（費用）」</p> <p>    デリバティブ未実現損益</p> <p>        為替予約    9,603百万円 - 「営業外損益 - その他の収益（費用）」</p> <p>        商品先物    2,426百万円 - 「売上原価」</p> <p>    年金債務調整額 - 期間純年金費用</p>					

(単位：百万円)

摘要					
平成25年度第3四半期連結会計期間のその他の包括利益（損失）の内訳は、次のとおりです。					
	為替換算 調整額	有価証券 未実現損益	デリバティブ 未実現損益	年金債務 調整額	合計
当期発生額：					
税効果調整前	120,723	752	480	107	119,384
税効果額		53	98	29	122
税効果調整後	120,723	805	578	78	119,262
当期純利益への振替額：					
税効果調整前	2,761	13,208	1,527	4,074	10,368
税効果額		4,992	76	53	5,015
税効果調整後	2,761	8,216	1,603	4,021	5,353
その他の包括利益（は損失）					
- 税効果調整後	117,962	9,021	1,025	3,943	113,909
非支配持分に帰属するその他の 包括利益（は損失） - 税効果 調整後	6,257	30		10	6,297
その他の包括利益（は損失）累 積額の増減額	111,705	9,051	1,025	3,933	107,612

上表における「当期純利益への振替額 - 税効果調整前」は、各々四半期連結損益計算書上、以下のとおり含まれています。（は損失）

- 為替換算調整額 - 「営業外損益 - その他の収益（費用）」
- 有価証券未実現損益 - 「営業外損益 - その他の収益（費用）」
- デリバティブ未実現損益
  - 為替予約 339百万円 - 「営業外損益 - その他の収益（費用）」
  - 商品先物 1,188百万円 - 「売上原価」
- 年金債務調整額 - 期間純年金費用

(単位：百万円)

摘要

9 損益等の補足説明

平成24年度第3四半期及び平成25年度第3四半期の「営業外損益 - その他の費用」には、以下の項目が含まれています。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
国内・海外の早期退職に伴う特別退職加算金	23,096	8,450
保有株式の評価減	4,104	45
為替差損益	5,157	4,352

	前第3四半期連結会計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)
国内・海外の早期退職に伴う特別退職加算金	8,613	6,637
保有株式の評価減	87	-
為替差損益 (は利益)	1,242	768

平成25年度第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間の「営業外損益 - その他の収益」には、退職給付信託設定益が12,199百万円含まれています。

平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間の確定給付年金制度の退職給付費用は、各々45,326百万円(費用)及び49,035百万円(収益)です。平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間の確定給付年金制度の退職給付費用は、各々15,241百万円(費用)及び6,132百万円(費用)です。

なお、当社及び一部の国内子会社は、平成25年度第1四半期連結会計期間に、従来の確定給付年金制度について、平成25年7月1日以降の積立分(将来分)を確定拠出年金制度へ移行することを決定しました。米国会計基準においては、この決定に伴い、過去の制度改定により減少した退職給付債務の全額を一括して認識することが要求されているため、平成25年度第3四半期連結累計期間の連結損益計算書において、当該減少額79,762百万円を「営業外損益 - その他の収益」として計上しています。

当社及び一部の国内子会社は、平成25年度第1四半期連結会計期間に、当社グループ特別経営施策における賞与減額の実施に関する労使の合意がなされたため、平成24年度末の連結貸借対照表で見積り計上した平成25年度夏季賞与にかかる賞与引当金(「未払人件費等」)のうち、減額見積額の振戻しを行いました。なお、当該振戻しは、米国会計基準上、会計上の見積りの変更となります。これにより、平成25年度第3四半期連結累計期間の連結損益計算書において、営業利益及び税引前利益がいずれも20,133百万円増加しています。

平成24年度末の連結貸借対照表の「短期負債及び一年以内返済長期負債」には、短期社債の残高が140,573百万円含まれています。なお、平成25年度第3四半期末において、短期社債の残高はありません。

摘要

平成24年度第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間の「営業外損益 - その他の収益」には、タイで発生した洪水に関連する損益が各々3,573百万円（保険収入から洪水に関連する損失464百万円を控除した金額）及び2,330百万円（保険収入から洪水に関連する損失75百万円を控除した金額）含まれています。

平成24年度第3四半期連結累計期間の「営業外損益 - のれんの減損」には、第2四半期連結会計期間に計上した「エコソリューションズ」セグメントに帰属するソーラー事業に関連する減損損失が72,197百万円、「AVCネットワークス」セグメントに帰属する携帯電話事業に関連する減損損失が91,007百万円、「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」セグメントに帰属する民生用リチウムイオン電池事業に関連する減損損失が74,574百万円含まれています。

ソーラー事業に関連するのれんの減損は、製品価格の継続的な下落を受けて今後の販売及び投資政策を見直した結果、同事業の見積公正価値が減少したことによるものです。公正価値は、ディスカウント・キャッシュ・フロー法、類似上場会社比較法及び類似取引法により決定されています。携帯電話事業に関連するのれんの減損は、国内でのシェア低下及び海外展開を見直した結果、同事業の見積公正価値が減少したことによるものです。公正価値は、ディスカウント・キャッシュ・フロー法及び類似上場会社比較法により決定されています。民生用リチウムイオン電池事業に関連するのれんの減損は、製品価格の継続的な下落を受けて今後の販売及び投資政策を見直した結果、同事業の見積公正価値が減少したことによるものです。公正価値は、ディスカウント・キャッシュ・フロー法、類似上場会社比較法及び類似取引法により決定されています。

平成24年度第3四半期連結累計期間の「法人税等」には、第2四半期連結会計期間に計上した連結決算におけるパナソニック(株)及びパナソニック モバイルコミュニケーションズ(株)（平成25年4月1日付でパナソニック(株)に吸収合併）の繰延税金資産に対する評価引当金の計上額が、各々371,557百万円及び40,968百万円含まれています。

国内市場における薄型テレビを中心としたデジタルコンシューマー商品等の急激な販売下落による収益性の低下や平成24年度第3四半期連結会計期間以降の厳しい経営環境を踏まえ、会計基準編纂書740「法人税」の規定に従い、繰延税金資産の回収可能性を慎重に検討した結果、繰延税金資産が実現しない可能性がより確からしいと認められたため、上述2社の繰延税金資産に対して評価引当金を計上しました。

(単位：百万円)

摘要

10 公正価値

会計基準編纂書820「公正価値測定と開示」の規定は、公正価値を市場参加者が測定日に行う通常取引において資産を売却して受け取る価格または負債を譲渡するために支払う価格と定義しています。同規定は、公正価値の測定に使用される評価技法のためのインプットを優先付ける公正価値の階層を、次のとおり3つに設定しています。

レベル1 - 活発な市場における同一資産・負債の市場価格

レベル2 - 活発な市場における類似の資産・負債の観察可能な価格、  
 活発でない市場における同一または類似の資産・負債の価格、  
 資産・負債に関して直接観察可能な、価格以外の市場インプット、  
 直接観察可能ではないが、観察可能な市場データから導き出されるか、または裏付けられる市場インプット

レベル3 - 報告企業が、市場参加者が使用するであろうと考える仮定に基づく観察不能なインプット

継続的に公正価値を測定している資産及び負債

平成24年度末及び平成25年度第3四半期末現在の、当社が継続的に公正価値を測定している資産及び負債の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度				当第3四半期連結会計期間			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計	レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：								
売却可能有価証券：								
株式	84,035	-	-	84,035	59,784	-	-	59,784
社債・政府債	-	1,718	-	1,718	-	1,691	-	1,691
その他債券	-	12	-	12	-	16	-	16
計	84,035	1,730	-	85,765	59,784	1,707	-	61,491
金融派生商品：								
為替予約	-	1,203	-	1,203	-	10,225	-	10,225
通貨スワップ	-	-	-	-	-	1,733	-	1,733
商品先物	3,641	5,491	-	9,132	5,063	7,019	-	12,082
計	3,641	6,694	-	10,335	5,063	18,977	-	24,040
負債：								
金融派生商品：								
為替予約	-	13,824	-	13,824	-	6,974	-	6,974
通貨スワップ	-	184	-	184	-	109	-	109
商品先物	6,254	3,622	-	9,876	7,166	4,893	-	12,059
計	6,254	17,630	-	23,884	7,166	11,976	-	19,142

レベル1には、市場性のある株式及び商品先物が含まれており、十分な取引量と頻繁な取引がある活発な市場における調整不要な市場価格で評価しています。

レベル2の売却可能有価証券には、すべての債券が含まれており、直接観察可能ではないが、金融機関から提供された観察可能な市場データに基づき評価しています。レベル2の金融派生商品に含まれている先物為替予約、商品先物などは、金融機関またはブローカーから入手した市場価格に基づき評価され、為替レート及び商品先物市場価格などの観察可能な市場インプットを使用した価格モデルに基づき定期的に検証しています。

摘要

金融商品の公正価値

実務上、公正価値の算定が可能な金融商品は、下記の前提と方法に基づいてその公正価値を算定しています。

売却可能有価証券

市場価格に基づいて算定しており、帳簿価額と一致しています。なお、公正価値は注記3でも記載しています。

長期負債（一年以内返済分を含む）

市場価格または将来のキャッシュ・フローを適切な期末日の割引金利を使って計算した現在価値に基づいて算定しており、すべてレベル2に分類しています。平成24年度末現在の帳簿価額及び公正価値は、各々947,786百万円及び957,896百万円です。また、平成25年度第3四半期末現在の帳簿価額及び公正価値は、各々825,619百万円及び841,795百万円です。

金融派生商品

調整不要な市場価格、または金融機関やブローカーから入手した観察可能な活発でない市場インプットを使用した価格モデルに基づいて算定しており、帳簿価額と一致しています。

長期貸付金

将来のキャッシュ・フローを適切な期末日の割引金利を使って計算した現在価値に基づいて算定しており、すべてレベル2に分類しています。公正価値は、帳簿価額と近似しています。

上記以外の金融商品（現金及び現金同等物、定期預金、売掛金、短期負債、買掛金、未払費用等）

短期間で決済され、帳簿価額と近似しています。

（注）公正価値は期末時における市場と金融商品の情報に基づいて評価されたものです。このような評価には不確実な要素や当社の判断が含まれているため、前提が変わった場合、評価に重要な影響が及ぶ可能性があります。

(単位：百万円)

摘要

非継続的に公正価値を測定した資産及び負債

平成24年度第3四半期連結累計期間における当社が非継続的に公正価値を測定した重要な資産及び負債の内訳は次のとおりです。

	損益計上額 (は損失)	前第3四半期連結累計期間			
		公正価値			
		レベル1	レベル2	レベル3	合計
資産：					
長期性資産	99,333			211,288	211,288
のれん	237,778			0	0

当社は、上記の資産に係る減損損失の認識に伴い、資産をいずれも観察不能なインプットに基づき評価しているため、当該資産をレベル3に分類しています。これらのうち主な資産の公正価値は、再調達原価に基づく個別査定や、超過収益法、免除ロイヤリティ法、ディスカウント・キャッシュ・フロー法、類似上場会社比較法、類似取引法等に基づいて測定しています。

平成24年度第3四半期連結累計期間において当社が非継続的に公正価値を測定し、レベル3に分類した重要な資産及び負債の評価技法及び観察不能なインプットは次のとおりです。

	公正価値	前第3四半期連結累計期間		
		評価技法	観察不能なインプット	範囲
資産：				
長期性資産	211,288	超過収益法 免除ロイヤリティ法	割引率	10.0% 6.5% - 10.0%
のれん	0	ディスカウント・ キャッシュ・フロー法 類似上場会社比較法 類似取引法	加重平均資本コスト E B I T D A 倍率 E B I T D A 倍率	6.2% - 7.3% 2.6 - 6.2 7.0 - 11.0

平成24年度第3四半期連結会計期間における当社が非継続的に公正価値を測定した重要な資産及び負債はありません。

(単位：百万円)

摘要

平成25年度第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間における当社が非継続的に公正価値を測定した重要な資産及び負債の内訳は次のとおりです。

	当第3四半期連結累計期間				
	損益計上額 (は損失)	公正価値			合計
		レベル1	レベル2	レベル3	
資産：					
長期性資産	32,176			2,339	2,339

  

	当第3四半期連結会計期間				
	損益計上額 (は損失)	公正価値			合計
		レベル1	レベル2	レベル3	
資産：					
長期性資産	26,011			1,471	1,471

当社は、上記の資産に係る減損損失の認識に伴い、資産をいずれも観察不能なインプットに基づき評価しているため、当該資産をレベル3に分類しています。これらのうち主な資産の公正価値は、再調達原価に基づく個別査定等に基づいて測定しています。

平成25年度第3四半期連結累計期間及び第3四半期連結会計期間において当社が非継続的に公正価値を測定し、レベル3に分類した重要な資産及び負債の評価技法及び観察不能なインプットは次のとおりです。

	当第3四半期連結累計期間			
	公正価値	評価技法	観察不能なインプット	範囲
資産：				
長期性資産	2,339	再調達原価法	残価率	0.0% - 9.3%

  

	当第3四半期連結会計期間			
	公正価値	評価技法	観察不能なインプット	範囲
資産：				
長期性資産	1,471	再調達原価法	残価率	0.0% - 9.3%

摘要

11 契約残高及び偶発債務

当社は、関連会社及び取引先の外部借入金等について、それらの信用補完のために債務保証をしています。これらの債務保証先が債務不履行となった場合、当社に支払債務が発生します。また、当社が独立の第三者に対して売却した売上債権には、買い戻し条件が付されているものがあります。当該買い戻し条件付債権の回収に疑義が生じた場合、当社に遡及義務が発生します。これらの場合に当社が負うと予想される債務の総額は、平成25年度第3四半期末現在、最大で33,591百万円です。平成25年度第3四半期末現在、当社がこれらの債務について計上している負債の金額は重要ではありません。

機械装置及び備品の一部のセール・アンド・リースバック取引に伴い、当社はリース資産の一定価額を保証しています。リース期間中または終了時点で一定の条件が満たされる場合、当社に支払債務が発生します。この場合に当社が負うと予想される債務の総額は、平成25年度第3四半期末現在、最大で5,311百万円です。平成25年度第3四半期末現在、当社がこれらの債務について計上している負債の金額は重要ではありません。

当社及び一部の子会社は、国内の複数の工場において土地に係る定期借地権契約を結んでおり、退去時における原状回復に係る債務を有していますが、当該債務に関連する賃借資産の使用期間が明確でなく、将来移転する予定もないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上していません。

当社及び一部の子会社は、取引、租税、製品、知的財産権等に関して、複数の訴訟の被告となる、政府機関の調査を受けるなど、複数の法的手続に関与しています。

当社及び子会社は、これらの訴訟や調査に対応していますが、訴訟や調査の結果によっては当社と複数の子会社に損害賠償金や制裁金が課される可能性があるため、金額は不確定であるものの、合理的に見積り可能な制裁金を引当計上しています。

平成19年11月以降、当社及び当社子会社のMT映像ディスプレイ(株)(以下、「MTPD」)は、ブラウン管事業に関する独占禁止法違反の可能性について、公正取引委員会、米国司法省、欧州委員会等の政府機関の調査を受けるほか、米国及びカナダにおいて当社と複数の子会社に対する集団代表訴訟を提起されています。平成21年度に、MTPDは公正取引委員会から排除措置命令を、その東南アジア子会社3社は課徴金納付命令を受けましたが、それぞれ審判手続中です。また、平成24年度に当社及びMTPDは、欧州競争法に違反したとして制裁金を課す欧州委員会の決定通知を受けましたが、事実認定や法令の適用に疑義があるため、欧州普通裁判所に提訴しました。

平成21年2月以降、当社は、冷蔵庫用コンプレッサー事業に関する独占禁止法違反の可能性について、米国司法省、欧州委員会等の政府機関の調査を受けるほか、米国及びカナダにおいて当社と複数の子会社に対する集団代表訴訟を提起されています。平成22年度に米国司法省及びカナダ競争局に対してそれぞれ罰金を支払ったほか、平成23年度に欧州委員会に対して制裁金を支払いました。

その他にも当社及び一部の子会社はいくつかの訴訟をかかえています。これらの訴訟による損害が仮に発生したとしても、四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものではないと考えています。

当社は、訴訟や当局の調査に関して、引当金以外の追加的な費用範囲の見積りは開示していません。調査や法的手続等には、複数の法的論点が存在し、多数の関与者が含まれ、あるいは関連法律が複雑または不透明な海外案件もあるため、そのような見積りは困難なためです。

(単位：百万円)

## 摘要

## 12 セグメント情報

当社は、会計基準編纂書280「セグメント情報」の規定を適用しています。以下に報告されているセグメントは、当社の構成単位のうち独立した財務情報が入手可能であり、最高経営政策決定者が、経営資源の配分の決定及び業績の検討のため、定期的に評価を行う対象になっているものです。

セグメントの区分は、平成25年4月1日にグループ体制の再編を実施したことに伴い、従来の8セグメントから以下の5セグメントへ変更しています。

「アプライアンス」は、白物家電・理美容・健康商品等の開発・製造及び業務用冷熱機器等の開発・製造・販売を行っています。「エコソリューションズ」は、照明（照明器具、照明デバイス、管球）、配線・配電・創蓄エネマナ（配電システム、配線器具、太陽光発電システム、蓄電池）、住宅設備（建材、水廻り）、空質（換気送風、空気清浄機、除湿・加湿器）の開発・製造・販売、環境エンジニアリング事業及び介護機器・サービス事業を行っています。「AVCネットワークス」は、デジタルAV事業（デジタルテレビ、BD・DVD、オーディオ機器、ディスプレイデバイス）、イメージング事業（デジタルカメラ、デジタルビデオカメラ、業務用AVカメラ）、システムネットワーク事業（航空機用AV機器、プロジェクター、PC、防犯カメラ、PBX、固定電話、ハンディターミナル）、モバイル通信機器事業及び企業向けソリューション販売を行っています。「オートモーティブ&インダストリアルシステムズ」は、オートモーティブ関連事業（車載マルチメディア関連機器、環境対応車関連機器、電装品等）、インダストリアル関連事業（電子部品、電子材料、半導体、光デバイス、一次電池、二次電池、充電器、蓄電システム、電池応用商品・部材等）、マニファクチャリング関連事業（電子部品実装関連システム、溶接関連システム）及び自転車関連等の開発・製造・販売・サービスを行っています。「その他」は、パナソニックヘルスケア㈱、パナホーム㈱等により構成されています。

## セグメント情報（第3四半期連結累計期間）

平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間におけるセグメント情報は次のとおりです。なお、平成24年度第3四半期連結累計期間のセグメント情報については、平成25年度の形態に合わせて組み替えして表示しています。

## 売上高

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
アプライアンス：		
外部顧客に対するもの	588,222	644,985
セグメント間取引	245,694	258,180
計	833,916	903,165
エコソリューションズ：		
外部顧客に対するもの	1,045,718	1,138,616
セグメント間取引	188,429	192,698
計	1,234,147	1,331,314
AVCネットワークス：		
外部顧客に対するもの	1,104,904	1,060,553
セグメント間取引	112,634	108,565
計	1,217,538	1,169,118
オートモーティブ&インダストリアルシステムズ：		
外部顧客に対するもの	1,763,574	1,932,265
セグメント間取引	124,841	118,535
計	1,888,415	2,050,800
その他：		
外部顧客に対するもの	538,180	502,516
セグメント間取引	107,598	92,287
計	645,778	594,803
消去・調整		
外部顧客に対するもの	399,065	400,876
セグメント間取引	779,196	770,265
計	380,131	369,389
連結計	5,439,663	5,679,811

(単位：百万円)

## 摘要

## 利益（は損失）

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
アプライアンス	34,854	26,958
エコソリューションズ	44,011	73,527
AVCネットワークス	24,054	6,362
オートモーティブ&インダストリアル システムズ	27,234	86,431
その他	9,924	9,126
消去・調整	49,832	73,496
計	121,953	263,176
受取利息	7,219	7,492
受取配当金	3,639	1,948
その他の収益	70,416	133,518
支払利息	18,349	16,374
長期性資産の減損	99,333	32,176
のれんの減損	237,778	
その他の費用	117,165	50,547
税引前利益（は損失）	269,398	307,037

「消去・調整」欄には、セグメント業績の管理上、特定のセグメントに帰属しない収益・費用や、連結会計上の調整及びセグメント間の内部取引消去が含まれています。

平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間の売上高に関する調整には、主に、コンシューマー商品の販売部門経由の外部顧客に対する売上が内部業績管理価格を用いて作成されていることによる取引価格の差額が、各々474,860百万円及び494,179百万円含まれています。また、一部の持分法適用会社がセグメントの業績管理の範囲に含まれているため、その連結会計上の調整が、各々73,308百万円及び78,604百万円含まれています。

平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間の利益に関する調整には、主に、本社部門等の損益及び各セグメントに配賦されないコンシューマー商品の販売部門に帰属する損益が、各々20,749百万円及び61,024百万円含まれています。また、連結会計上の調整として、企業結合会計により計上した無形固定資産の償却費や会計基準差異の調整等が、各々29,083百万円及び12,472百万円含まれています。

セグメント間における取引は独立企業間価格で行われています。平成24年度第3四半期連結累計期間及び平成25年度第3四半期連結累計期間において、単一の外部顧客に対する売上高で重要なものではありません。

(単位：百万円)

摘要

セグメント情報（第3四半期連結会計期間）

平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間におけるセグメント情報は次のとおりです。なお、平成24年度第3四半期連結会計期間のセグメント情報については、平成25年度の形態に合わせて組み替えして表示しています。

売上高

	前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
アプライアンス：		
外部顧客に対するもの	178,135	208,958
セグメント間取引	76,858	83,804
計	254,993	292,762
エコソリューションズ：		
外部顧客に対するもの	362,025	402,767
セグメント間取引	69,819	72,798
計	431,844	475,565
A V C ネットワークス：		
外部顧客に対するもの	342,059	371,393
セグメント間取引	45,605	42,279
計	387,664	413,672
オートモーティブ&インダストリアル システムズ：		
外部顧客に対するもの	568,797	650,976
セグメント間取引	41,701	43,912
計	610,498	694,888
その他：		
外部顧客に対するもの	173,231	168,881
セグメント間取引	34,930	32,489
計	208,161	201,370
消去・調整		
外部顧客に対するもの	177,256	170,516
セグメント間取引	268,913	275,282
計	91,657	104,766
連結計	1,801,503	1,973,491

(単位：百万円)

## 摘要

## 利益（は損失）

	前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
アプライアンス	6,131	9,784
エコソリューションズ	24,280	32,138
A V C ネットワークス	10,836	10,096
オートモーティブ&インダストリアル システムズ	779	28,185
その他	3,519	3,701
消去・調整	19,310	32,683
計	34,587	116,587
受取利息	2,073	2,661
受取配当金	1,101	438
その他の収益	37,348	25,443
支払利息	6,267	4,490
長期性資産の減損	2,349	26,011
その他の費用	57,220	14,996
税引前利益	9,273	99,632

「消去・調整」欄には、セグメント業績の管理上、特定のセグメントに帰属しない収益・費用や、連結会計上の調整及びセグメント間の内部取引消去が含まれています。

平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間の売上高に関する調整には、主に、コンシューマー商品の販売部門経由の外部顧客に対する売上が内部業績管理価格を用いて作成されていることによる取引価格の差額が、各々202,473百万円及び205,563百万円含まれています。また、一部の持分法適用会社がセグメントの業績管理の範囲に含まれているため、その連結会計上の調整が、各々25,720百万円及び28,086百万円含まれています。

平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間の利益に関する調整には、主に、本社部門等の損益及び各セグメントに配賦されないコンシューマー商品の販売部門に帰属する損益が、各々4,386百万円及び28,668百万円含まれています。また、連結会計上の調整として、企業結合会計により計上した無形固定資産の償却費や会計基準差異の調整等が、各々14,924百万円及び4,015百万円含まれています。

セグメント間における取引は独立企業間価格で行われています。平成24年度第3四半期連結会計期間及び平成25年度第3四半期連結会計期間において、単一の外部顧客に対する売上高で重要なものはありません。

(単位：百万円)

摘要

地域別情報

平成24年度第3四半期及び平成25年度第3四半期における顧客の所在地別に分類した売上高は次のとおりです。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
日本	2,795,343	2,757,603
米州	757,325	853,731
欧州	499,601	568,734
アジア・中国他	1,387,394	1,499,743
連結計	5,439,663	5,679,811
米州のうち、米国	635,985	724,755
アジア・中国他のうち、中国	733,296	767,703

	前第3四半期連結会計期間 (自平成24年10月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成25年10月1日 至平成25年12月31日)
日本	917,164	970,271
米州	270,719	299,822
欧州	179,221	214,479
アジア・中国他	434,399	488,919
連結計	1,801,503	1,973,491
米州のうち、米国	225,854	252,924
アジア・中国他のうち、中国	218,676	257,057

(注) 本邦以外の区分に属する主な国または地域

- (1) 米州.....北米、中南米
- (2) 欧州.....欧州、アフリカ
- (3) アジア・中国他.....アジア、中国、オセアニア

米国、中国を除いて、米州、欧州、アジア・中国他の地域に、独立区分して開示する必要のある重要な国はありません。

摘要

13 配当に関する事項  
(配当金支払額)

平成25年10月31日開催の取締役会において、次のとおり決議しています。

株式の種類	普通株式
配当金の総額	11,558百万円
1株当たり配当額	5円00銭
基準日	平成25年9月30日
効力発生日	平成25年12月5日
配当の原資	利益剰余金

## 2【その他】

### (1) 配当決議

平成25年10月31日開催の取締役会において、平成25年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主に  
対し、第107期の中間配当を行うことを決議しました。

中間配当による配当金の総額	11,558百万円
1株当たりの金額	5円00銭
支払請求の効力発生日 及び支払開始日	平成25年12月5日

### (2) 訴訟等

当社及び一部の子会社は、取引、租税、製品、知的財産権等に関して、複数の訴訟の被告となる、政府機関の  
調査を受けるなど、複数の法的手続に関与しています。

当社及び子会社は、これらの訴訟や調査に対応していますが、訴訟や調査の結果によっては当社と複数の子会  
社に損害賠償金や制裁金が課される可能性があります。

平成19年11月以降、当社及び当社子会社のMT映像ディスプレイ(株)(以下、「MTPD」)は、ブラウン管事  
業に関する独占禁止法違反の可能性について、公正取引委員会、米国司法省、欧州委員会等の政府機関の調査を  
受けるほか、米国及びカナダにおいて当社と複数の子会社に対する集団代表訴訟を提起されています。平成21年  
度に、MTPDは公正取引委員会から排除措置命令を、その東南アジア子会社3社は課徴金納付命令を受けまし  
たが、それぞれ審判手続中です。また、平成24年度に当社及びMTPDは、欧州競争法に違反したとして制裁金  
を課す欧州委員会の決定通知を受けましたが、事実認定や法令の適用に疑義があるため、欧州普通裁判所に提訴  
しました。

平成21年2月以降、当社は、冷蔵庫用コンプレッサー事業に関する独占禁止法違反の可能性について、米国司  
法省、欧州委員会等の政府機関の調査を受けるほか、米国及びカナダにおいて当社と複数の子会社に対する集団  
代表訴訟を提起されています。平成22年度に米国司法省及びカナダ競争局に対してそれぞれ罰金を支払ったほ  
か、平成23年度に欧州委員会に対して制裁金を支払いました。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年2月13日

パナソニック株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 浜嶋 哲三 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 近藤 敬 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 洪 性禎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパナソニック株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年10月1日から平成25年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括損益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記事項について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記事項1参照）に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（四半期連結財務諸表注記事項1参照）に準拠して、パナソニック株式会社及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注） 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。